

下市町教育委員会だより

教育委員会から町民の皆様への情報通信



令和5年7月1日 第36号
奈良県下市町教育委員会
教育長 上東 祥浩 発行

下市町教育委員による 園・学校訪問

下 市町教育委員4名、教育長、指導主事が、6月1日(木)に下市あきつ学園、6月15日(木)に下市こども園へ訪問しました。校長先生並びに園長先生から、学校・園教育目標及び経営方針や仲間とともに「遊び」や「学び」にチャレンジしている子どもたちの様子を聞かせていただき、委員の皆様は、子どもたちの成長に目を細めていました。

あ きつ学園では、1年生から9年生までの縦割り活動(清掃活動等)や学校生活全般において、心温まる交流の取組や様子をお話されました。異学年が交流することで、『心の育み』にもつながる義務教育学校ならではの良さについて、再認識することができました。各教室で子どもたちは、電子黒板機能付きプロジェクター「ワイド」を使っての授業やグループ学習による対話的な授業等で学びを深めていました。



七夕製作(くま組)を参観

こ ども園では、園児たちが元気に活動し、子どもたちの愛くるしい笑顔が印象的でした。今年は、下市あきつ学園との交流をたいへん楽しみにしているとのことでした。



ワイドを活用した授業



グループ学習を参観

吉野川 鮎の放流体験

～ 下市こども園5歳児(ぞう組) ～

5月23日(火)、吉野町漁業組合からご連絡をいただき、奈良南高等学校(吉野校舎)下の河原で、5歳児11名が、鮎の放流体験を行いました。ぴちぴち跳ねる若鮎に子どもたちは、大はしゃぎ。鮎の入ったバケツをかたむけると、元気に清流吉野川に飛び出しました。




下市こども園と下市あきつ学園


～ 連携・交流活動 ～

5月30日(火)、6月8日(火)の両日、こども園とあきつ学園の代表の先生方により、交流活動の話し合いが持たれました。交流活動は、小学生への憧れの気持ちや親近感を持つことができるように、また園児に対して、思いやりの気持ちを持つたり、自分の成長に気づいたりできるようになることをねらいとしています。





読書に親しむ習慣を～豊かな人生を送るために～

 図書館司書の廣澤良呼と申します。本との出会いについて思い返してみると、小学生の頃、友だちと競うように図書館にある子ども向けの探偵シリーズを次々と読んだり、一般書籍の推理小説の読めない漢字をそばして読んでいました。

 毎月1日に「新書図書」が並びます。図書館HPの新着リストを確認してみてください。ぜひ、図書館にお越しください。



 7月生まれの有名な作家と言えば、新美南吉です。中学校時代から創作をはじめた代表作の「ごんぎつね」は、18歳という若さで執筆しています。この童話は、1980年から小学4年生の国語のすべての教科書に掲載されています。多くの方々が大人になった今も、心に残る作品として覚えていると思います。

 本は、心の糧となり、心の癒やしとなり、私たちに寄り添ってくれます。さらに成長期の子どもにとっては、本との出会いが視野を広げ、心の育みにつながります。ぜひ、ご家族で読書を!!



下市町社会教育委員会

6月16日(金)、町社会教育委員会議を開催しました。本委員会は、すべての町民の皆様が『心豊かで、充実した人生を創造する』ことをねらいに文化・スポーツ活動の推進、高齢者の生きがい促進、人権教育の推進、家庭及び地域の教育力の向上等をめざして活動を進めています。町民の皆様には、様々な事業に奮ってご参加いただきますようお願いいたします。



下市町文化財保護委員会

6月19日(月)、町文化財保護委員会議を開催しました。町の文化財は、下市町内、あるいは周辺地域等の交流により、長い歴史の中で生まれ、そして形成され、今日に伝えられてきた町の貴重な財産です。委員の皆様には、町の文化財の保護顕彰に積極的に関わっていただいています。会議後には、施設見学として、高松塚壁画館を訪れました。



『ハチドリのひとつく』

下市あきつ学園の児童生徒の皆さん、南米のアンデス地方に住む先住民に伝わる『ハチドリのひとつく』というお話は、聞いたことはありますか。次のようなお話です。

森が燃えていました。森の生きものたちはわれ先にと逃げていきました。でもクリキンディという名のハチドリだけは、いったりきたり口ばしで水のしづくを一滴ずつ運んでは火の上に落としていきます。動物たちがそれを見て「そんなことをして、いったい何になるんだ」といって笑います。クリキンディはこう答えました。「私は、私にできることをしているだけ」



ハチドリ

クリキンディは、次のように伝えてくれています。
『他の人を非難したり、怒りや惜しみや妬みに身を任せる暇があったら、自分のできること、自分にもできることを淡々とやっとう。どんな困難な中にも私たち一人一人には「できること」が必ずある。』目の前に起きていることに対して、無駄だと言われようとも「いま、私にできること」をし続けるクリキンディの姿には、学ぶものがあります。『わたしにできること』『誰かの役に立つこと』何でもかまいません。さあ、皆さんで考え、実行してみましょう。

「誰一人取り残されない社会」へ

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

11 住み続けられるまちづくりを



すべての人が水・電気などの必要なサービスを得られる安全な家に住み、特に子どもや女性、障がい者、高齢者など配慮が必要な人々にとって、安全で価格が安く、かつ環境に配慮した交通機関や公園などの公共スペースをつくることを目指す目標です。私たちの身近な生活を心地よくできる当たり前のあいさつや地域の為の活動など、他者を思いやる小さな取り組みから大切にしていけることが、この目標11には欠かせないとも言えるでしょう。



<下市あきつ学園では、SDGsと下市町をコラボで学ぶ郷土学習「下市学」を進めていきます。>

▼6月2日(金)、警報が発令され、大雨に見舞われました。次々と発生する発達した雨雲が列をなし、数時間にわたってほぼ同じ場所を通過または停滞することで作り出される強い局地的な降水をとともなう雨域、いわゆる「線状降水帯」。▼すでに、台風3号が発生。もう少し、梅雨が続きそうです。警戒が必要です。



ご意見・お問い合わせは…
下市町教育委員会事務局
☎ 0747-52-1711
FAX 0747-52-5159
✉ kyoi@town.shimoichi.nara.jp